

# 東日本大震災後における 組織及び人員体制の現状と課題

平成29年5月29日  
福島県行政経営課

# 1 平成29年度における主な組織改正等の概要



復興・創生の取組の中で生じる様々な行財政運営上の課題等に迅速かつ的確に対応し、本県の復興と地方創生を更に加速していくため、以下のとおり組織改正等を行った。

## (1) イノベーション・コースト構想の推進体制の強化

福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想の具体化に向け、庁内の推進体制を強化するため、企画調整部内に「国際研究産業都市推進監」を新設

## (2) 県立高校改革の実施に向けた体制強化

新たな県立高校改革を進めるため、教育庁に「県立高校改革監」を新設するとともに、高校教育課内に「県立高校改革室」を新設

## (3) 動物愛護推進の拠点施設の新設

県北・県中・県南保健福祉事務所で所掌している動物愛護・管理業務を集約し、動物愛護推進の拠点施設として、「動物愛護センター」を新設。また、会津・相双保健福祉事務所における同業務については、センター支所（会津支所・相双支所）として位置付け、引き続きそれぞれ対応

## (4) Jヴィレッジの再整備に向けた推進体制の強化

Jヴィレッジの再整備及び営業再開に向け、楡葉町にエネルギー課の駐在員を配置

## (5) 全国植樹祭の開催に向けた推進体制の強化

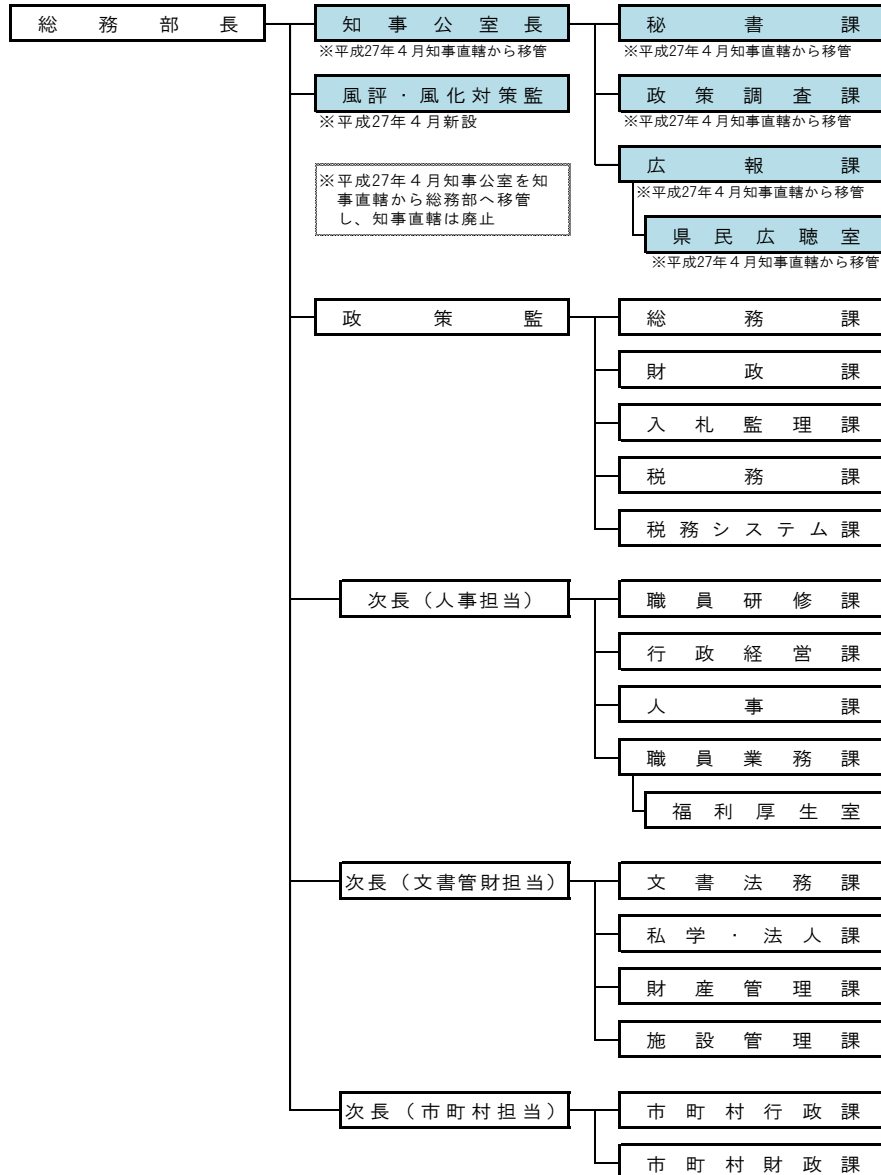
平成30年度開催の全国植樹祭に向けた推進体制を強化するため、全国植樹祭推進室の執行体制を強化するとともに、南相馬市に駐在員を配置

## (6) 双葉郡（富岡町）出先機関の帰還

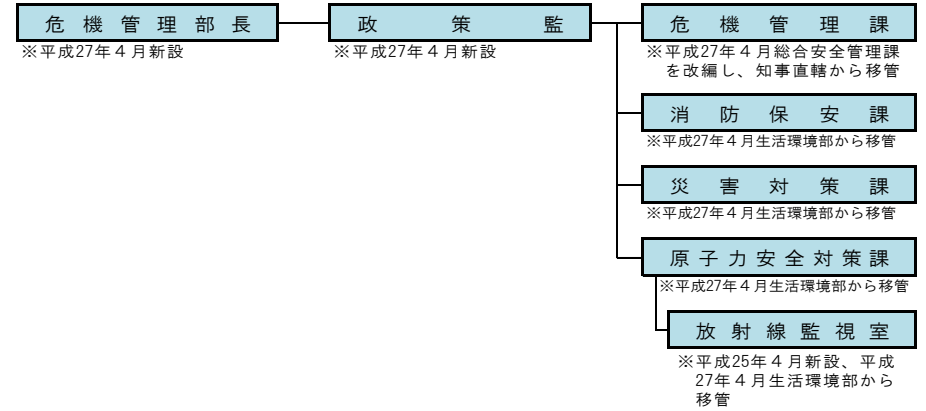
富岡町の避難指示解除に合わせ、ふたば復興事務所、富岡林業指導所及び富岡土木事務所については、平成29年4月1日から富岡合同庁舎で業務を再開

## 2 平成29年度福島県行政機構図（知事部局）

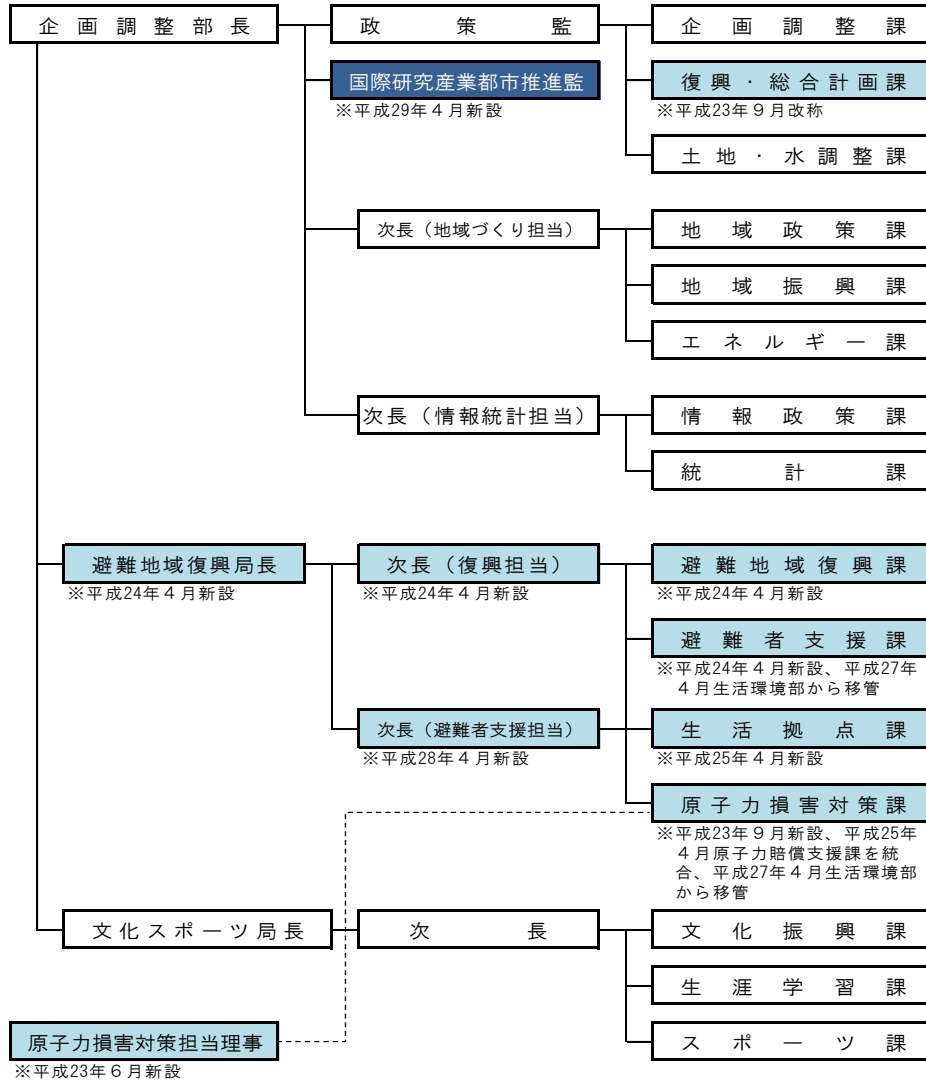
### （1）総務部



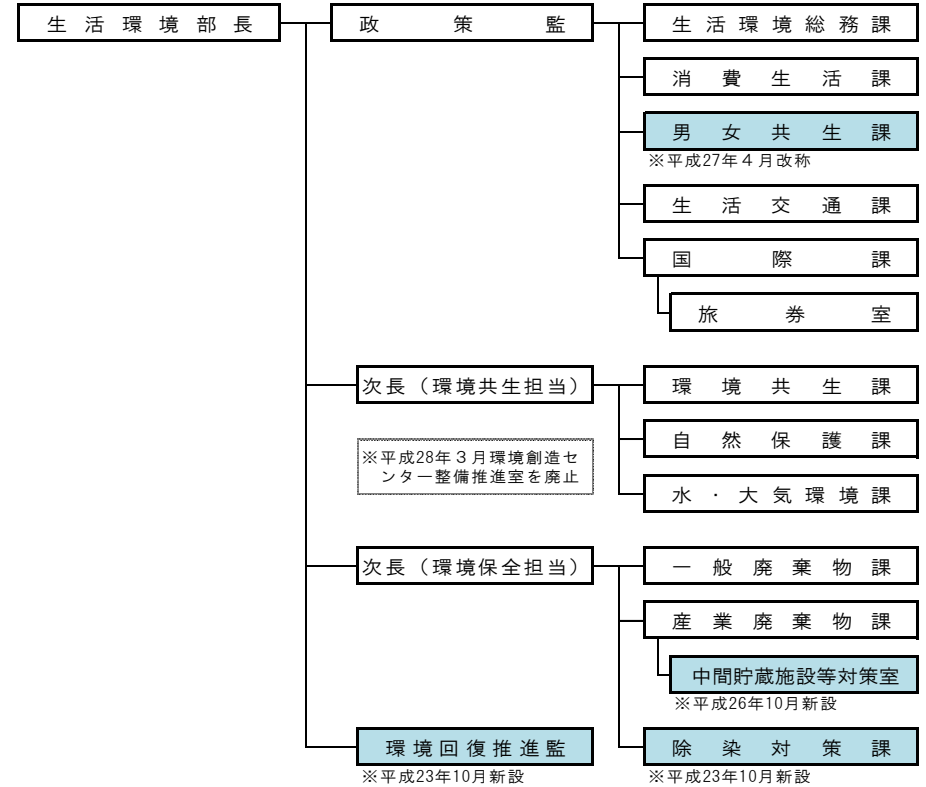
### （2）危機管理部（※平成27年4月新設）



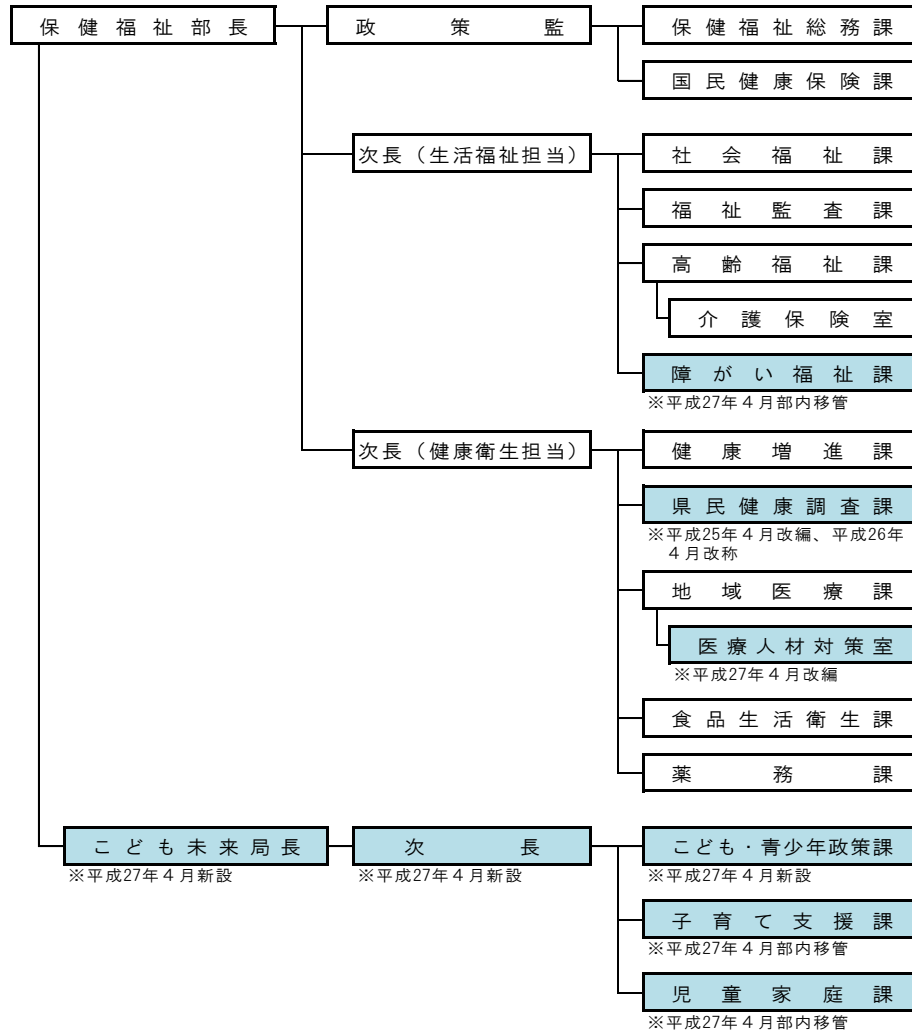
### (3) 企画調整部



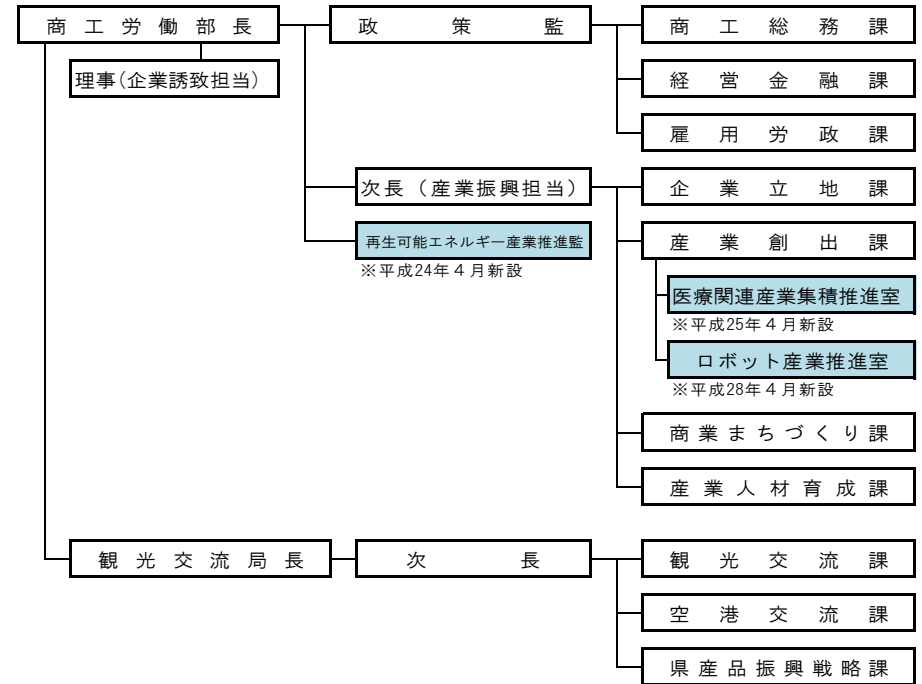
### (4) 生活環境部



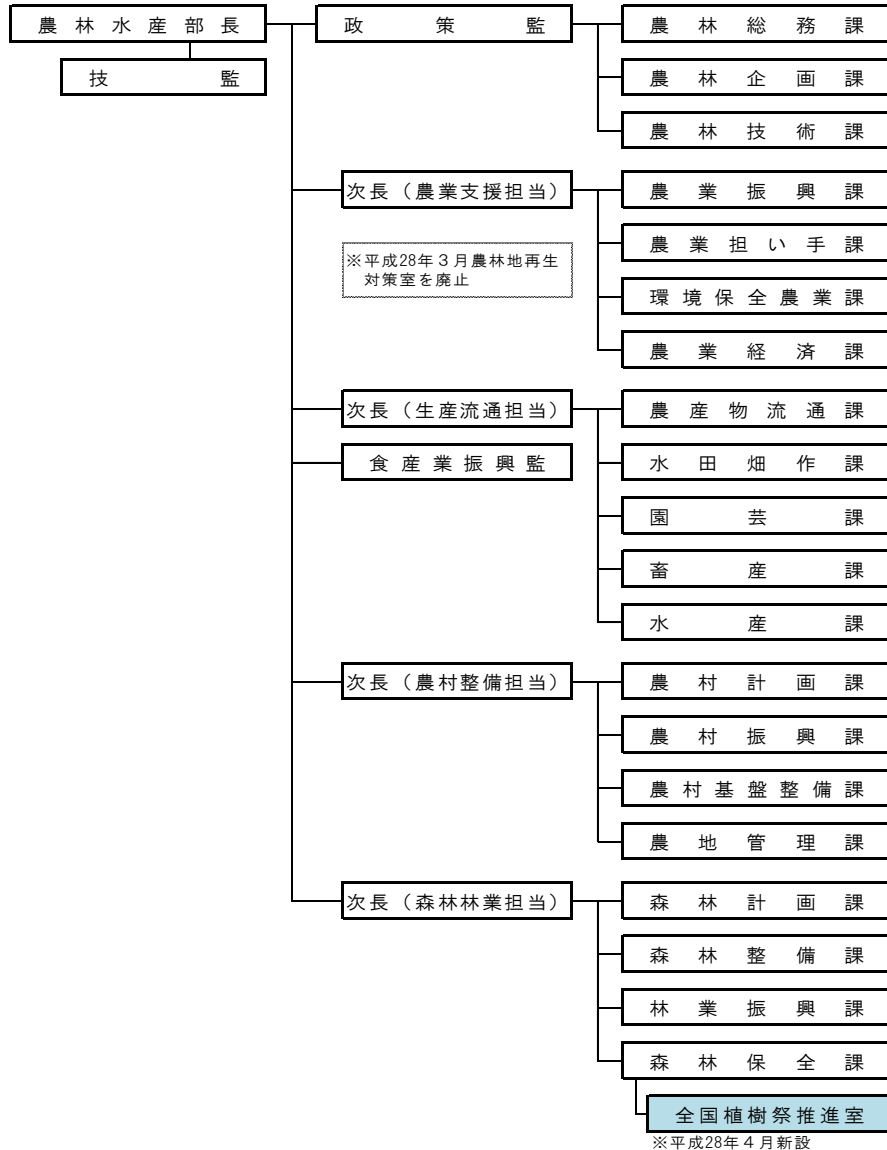
(5) 保健福祉部



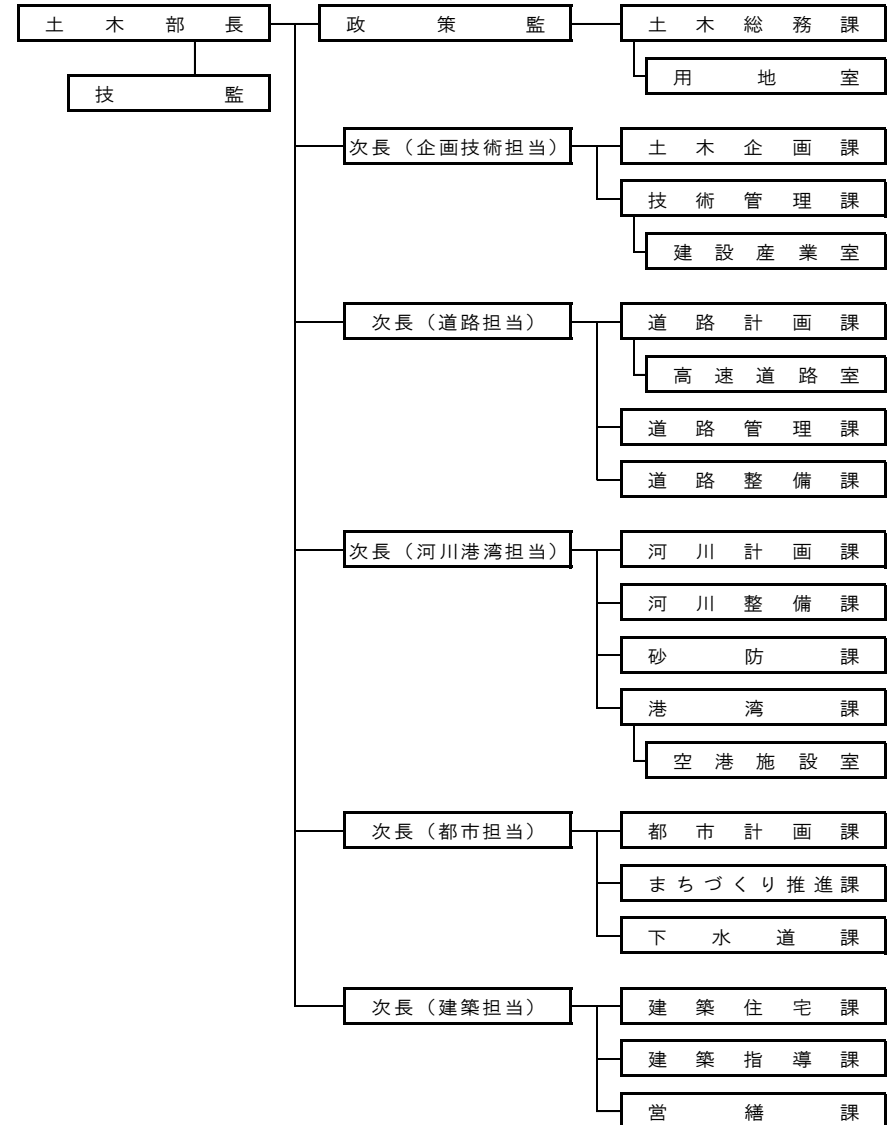
(6) 商工労働部



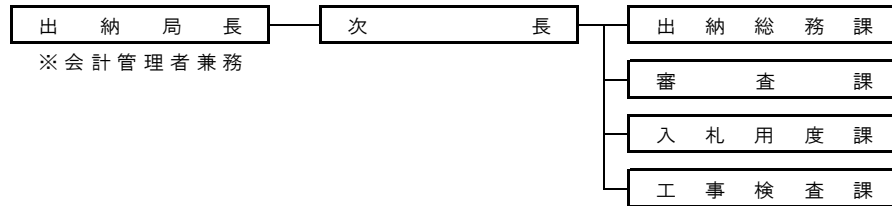
(7) 農林水産部



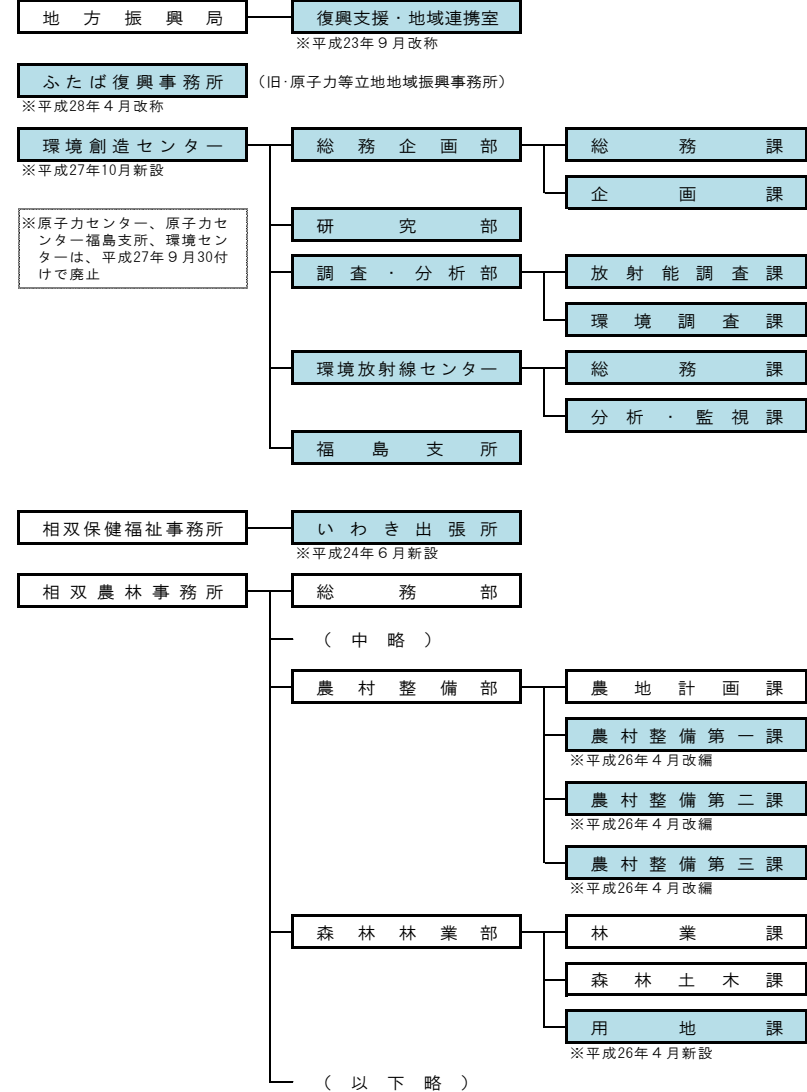
(8) 土木部

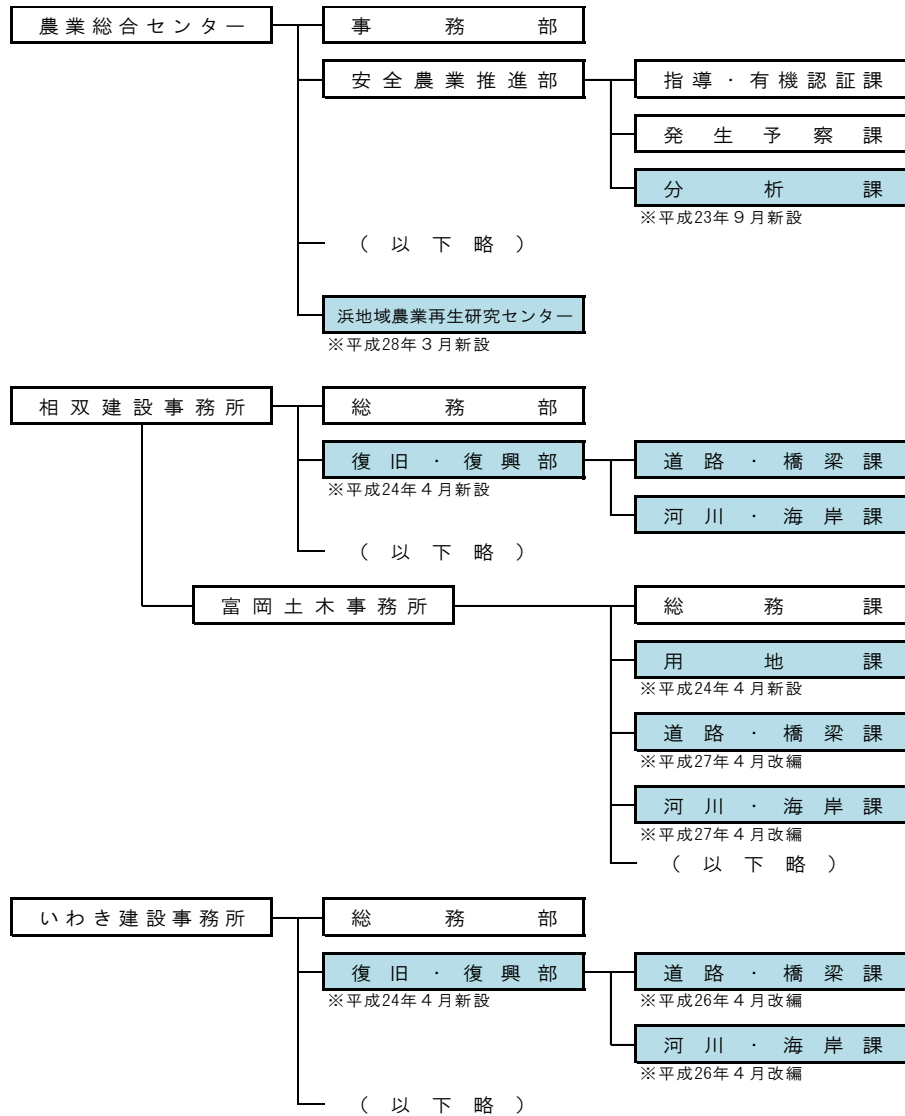


(9) 出納局



(10) 出先機関における改正（復旧・復興関連のみ）





(参考) 知事部局本庁機関及び出先機関数の推移

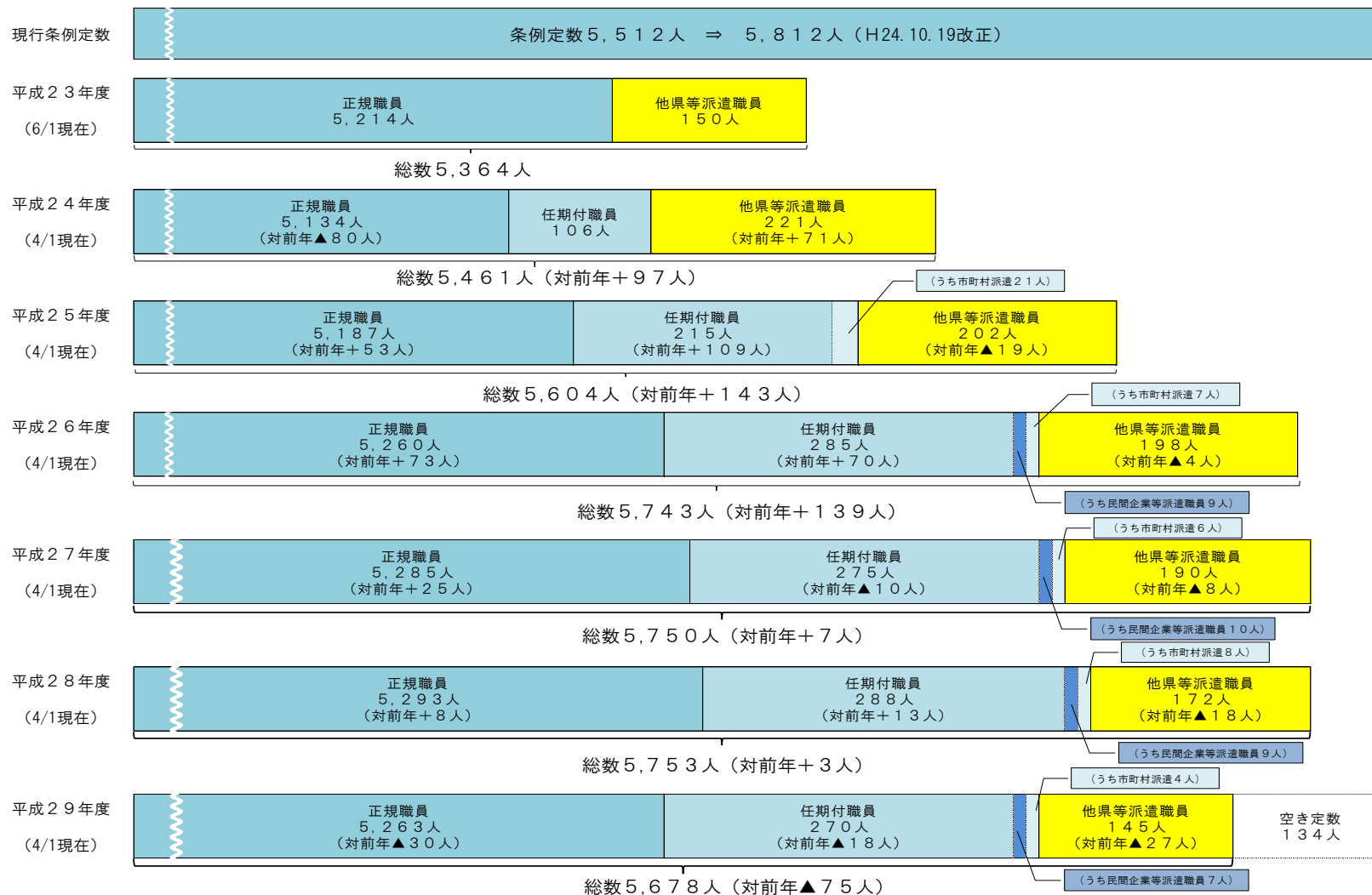
	本庁機関数	出先機関数
平成22年度	110課16課内室	86機関43出張所
平成23年度	107課13課内室	84機関43出張所
平成24年度	111課12課内室	82機関43出張所
平成25年度	111課14課内室	81機関45出張所
平成26年度	111課13課内室	81機関45出張所
平成27年度	112課14課内室	81機関45出張所
平成28年度	112課14課内室	80機関45出張所
平成29年度	112課14課内室	80機関47出張所

※各年度4月1日現在。ただし、平成23年度は6月1日現在。



### 3 平成23～29年度における知事部局職員数の全体イメージ

平成23～29年度における知事部局職員数の全体像



※任期付職員のうち、市町村派遣職員、民間企業等派遣職員については、本来、条例定数外の管理となるが、復興・創生に向けた人員確保策の一環として便宜的に計上。  
 なお、平成26～29年度の市町村派遣職員については、新規に派遣した数のみ計上（平成25～28年度採用更新者は除く）。  
 ※他県等派遣職員については、各年度4/1現在の派遣決定数。

## 4 復興・創生に係る組織・定員管理上の主な課題

### 主な課題

- 「復興・創生期間」における新たな行政課題や震災以降の行政需要の変化等への対応
- 着実な事業執行のために必要なマンパワーの確保と長期的な視点に立った組織運営
- 復興・創生等業務の増加に伴う適切な業務管理

### 求められる対応

- 復興・創生事業の進捗状況や行政需要等に応じ、効果的・効率的な業務執行体制の整備を図るため、柔軟に組織の見直しを行う。
- 短期的需要と長期的需要のバランスに考慮しながら、多様な方策により、必要人員の確保に努めるとともに、専門性を有する人材の育成や職員個々の能力向上に努めながら、持続可能な執行体制へのシフトを図る。
- 既存事業の見直しや事務の簡素・効率化、柔軟な職員の再配置等により、全庁的に超過勤務の縮減に取り組むなど、ワーク・ライフ・バランスを推進する。